

文化財を訪ねて —見てある記—

川田谷地域では、毎年10月、地域の鎮守^{ちんじゆ}の祭礼で「ささら獅子舞」が奉納^{ほうのう}されます。笛や太鼓の音に合わせ、獅子頭をかぶった舞い手が力強く、そして美しく舞う姿には、豊作や地域の平和を願う人びとの気持ちが進められています。



三田原のささら獅子舞

「ささら」とは、竹を細かく割って束ねた楽器のことで、舞の中でこれを擦って音を鳴らし、リズムを刻みます。獅子舞は獅子を導く宰領^{さいりやう}と三頭の獅子で舞い、勢いのある動きとゆったりとした動きが組み合わされているのが見どころ

です。

川田谷の獅子舞を知るうえで欠かせないのが、江戸時代にこの地域を治めていた牧野家^{まきの}です。初代領主である牧野康成^{やすしげ}は、徳川家康に従い多くの戦いに参加しました。その功績により、家康が関東へ移封された際には、川田谷や日出谷を含めた現在の上尾市西部から鴻巣市西部に所領を与えられ、川田谷に拠点^{けん}（陣屋^{じんや}）を構えました。この陣屋跡は圈央道工事に伴い発掘調査が行われ、牧野家の家紋「丸に三ツ柏^{かしわ}」が描かれた漆製品^{うるし}などが見つかっています。



漆製品（埼玉県教育委員会提供）

牧野家の嫡流^{ちやくりゆう}はその後、関宿藩^{せきしゆくはん}（現在の千葉県野田市）や田辺藩^{たなべはん}（現在の京都府舞鶴市）の大名となりますが、一族はその

牧野の殿様が愛でた舞 川田谷のささら獅子舞

後も領主としてこの地域を治め幕末まで続いています。

牧野家は住民の暮らしや信仰、文化にも深く関わったと伝えられています。川田谷には三田原・前領家・松原の3地区にささら獅子舞が伝承されており、衣装にはいずれも「丸に三ツ柏」の紋が描かれています。いずれの舞も同じ領主のもとで育まれ、領主と村人の結びつきの中で受け継がれてきたことがわかります。今年も三田原地区と前領家地区の祭礼でささら獅子舞の奉納が行われます。

前領家のささら獅子舞は、王子稻荷神社の祭礼で演じられます。牧野家に川田谷の獅子舞が招かれた際、前領家の獅子舞は陣屋の中で舞うことを許され、以来宰領が牧野家の家紋入りの陣笠^{じんがさ}をかぶるようになったという言い伝えがあります。笛は市内で唯一7穴のものを使用しており、7月半ばには前領家地区内の家々を獅子が被^かつてまわる村廻り行事^{むらまわ}（夏祈^{なつ}禱^{とう}）も続けられています。



前領家のささら獅子舞 宰領

少子高齢化や暮らし方の変化により民俗芸能の後継者の確保は簡単ではありませんが、川田谷では地域の保存会が中心となってこの伝統を守り続けています。秋の祭礼の日、笛やささらの音とともに獅子舞の姿からは、何百年もの間

この地に生きた人びとの祈りと絆の深さを感じることができそうです。牧野家が治めた歴史と、地域の人びとが守ってきた文化、その両方に思いを馳せながら、今年の秋はぜひ牧野のお殿様が愛でた川田谷のささら獅子舞に足を運んでみてはいかがでしょうか。

関文化財課 ☎ 786-4009

▼今年度の開催予定一覧はこちら



▼前領家 ささら獅子舞 YouTube 動画



▼松原 ささら獅子舞 YouTube 動画



▼三田原 ささら獅子舞 YouTube 動画

